

<成功の鍵は「ウッフィー」「ツイッターノミクス」著者 タラ・ハントさん> (100429 産経)
「カナダ生まれ。ブログやツイッター、フェイスブックなどを駆使した広告手法を開発。…カナダのモンリオール州政府にウェブを使った参加型自治のアドバイスもしている」
「コミュニケーションやビジネスの方法、政府のあり方まで、情報が双方向に送受信されるソーシャル・ネットワークは、あらゆる場面に影響を与えている」
「ウッフィーとは、SF小説「マジック・キングダムで落ちぶれて」に登場する概念で、その人への評価を意味する。他人から感謝されたり、尊敬されたりすればウッフィーは増え、逆なら減り、作中では貨幣の代わりに使用されている」
「「パーティーに行って、自分のことばかりしゃべっていたら嫌われますよね。でも、人の聞き役になり、他の人々にそれを伝えれば全員から好かれる。これが、ソーシャル・ネットワークの機能です」。ブログやツイッター、SNSなどで、どう振る舞えばよいかを提案する」「顧客サービスの怠りを指摘したブロガーを無視した企業の株価が急落したり、顧客を装ったやらせブログを書かせた企業が糾弾されたりした例が、本書では枚挙される」
「従来のビジネスモデルは文字通り崩壊しつつあるが、「どんな変化があるにしても、透明性を持って、コミュニケーションを保つことが大切です」「…ツイッターでのフォロワー(登録読者)は現在、3万人以上にある。…「ソーシャル・ネットワークには、世界中の人たちと深くかかわり合えるという魅力があるのです」

<ツイッター 授業に活用> (100429 読売)

「例えば、ドイツ語学習者がドイツでバスに乗ろうとする時。衛星を使った位置情報やカメラを使った周辺の映像を通して、学習者の行動を把握し、バスに乗る時の会話やビデオ、例文集などの教材を、自動的にスマートフォンのような端末に配信する」「…ツイッターも、SFCではいち早く、授業で活用している」「昨秋、教員の発言のポイントや感想などの「つぶやき」を、授業ごとに整理する「sfcnote」を発案した…」「一番つぶやきの多い授業もわかる。「手を挙げて発言すればいい」「講義での発言の一部が切り取られるのが怖い」…「もっと挑戦していい」と教員の声も様々」

<裏サイト 疑心の教室> (100502 朝日)

「《テストでカンニングしてたぞ》《ゲーム屋でソフトを万引きするのを見た》」…男性(21)は4年前、中高生らの間で広まっている携帯電話の学校裏サイトに、実名でこんな根も葉もない話を書かれた。…住所や携帯の番号までさらされた。▽こいつも書いているかも。皆が敵に見え、不登校になった…体重も12kg減った。▽夏ごろ、ネットで見つけた「全国 Web カウンセリング協議会」(東京)にメールで相談した。「君はたまたまターゲットになっただけ」という返信に、少し気が楽になった」
「《きもい。ウザイ。この世から一片の細胞残さず消え失せろ》▽…女性(18)は、高校2年の秋、五つの学校裏サイトでこう中傷された。帰宅する時の様子まで詳しくさらされた。…夜も眠れず、急性ストレス障害と診断された」
「同じ部活だった女子生徒は、泣いて謝罪した。「彼女はいつも上から目線。好きだったけど、悔しかった」▽もう一人は…男子生徒。「次々と反応が返ってきて、人気者になった気がした」
「相手をもやもやさせられて、自分はすっきりする」▽男子生徒(17)は、書き込む理由をそう表現した。小学5年からネットを始め、中学時代は携帯を3台、プロフと呼ばれる自己紹介サイトなどを6つ持っていた。…暇さえあれば、他人のプロフに書き込むようになり、そのたびに爽快感にひたった。…▽サイトを見ると、自分についての書き込みがあふれていた。《うざい》《死ぬ》《ここに電話しまくってくれ》 気味が悪くなって携帯の番号を変え、書き込みもしなくなった」